

## 23 SHRSPの血圧・寿命および脳卒中の発症に及ぼすかき肉エキスの影響

○川島朋絵、松田芳和(日本クリニック(株)・中研)、村上哲男、公平陽子(近畿大学農学部)

「目的」SHRSPを使用した研究で幼若期、高血圧進行期から良質のたんぱく質を含んだ食餌を与えると血圧の上昇を抑制し、脳卒中の発症を抑制することが明らかにされている。本研究では、多様な生理作用が報告されているかき肉エキスをSHRSPに投与し、血圧、寿命、脳血管障害の発症に対する影響を調べた。そして、脳卒中発症時に変動する過酸化脂質(TBARS)およびその関連酵素などの抗酸化系に対する影響も検討した。

「方法」生後8週齢の雄性SHRSPの同胞を対照群(船橋SP)と実験群(かき肉エキス1%含有飼料)に分けた。各ラットは自然死するまで飼育し、この間、20、25週齢時に尾静脈から採血を行い、血清TBARSを八木蛍光法、赤血球GSH-Px活性はWhanger, P.D.らの方法、SOD活性は今成らの方法で測定した。また、赤血球変形能はマイクロフィルター法で測定した。

「結果」血圧、体重に対する影響は認められなかった。平均生存日数は、対象群に比べて実験群はやや延長した。脳卒中発症率は対照群は100%、実験群は63%であった。血清TBARS値は20週齢じ対照群は $6.10 \pm 0.31$ nmol/ml plasma、実験群は $4.02 \pm 0.51$ nmol/ml plasmaでその上昇は抑制された。また、過酸化脂質の上昇に伴って起こる関連酵素活性の低下も実験群では抑制された。マイクロフィルターの赤血球通過量は、実験群が対照群に比べてやや多かった。